

専 門 分 野 I

基 礎 看 護 学

- 1 基礎看護学の考え方
- 2 基礎看護学目的・目標
- 3 基礎看護学の構成
- 4 基礎看護学学習内容

1 基礎看護学の考え方

看護を取り巻く環境は、少子高齢化に伴う社会構造の変化や医療制度の変遷、医療技術の発展によって常にダイナミックに変化している。特に、疾病構造の変化・人口の高齢化・高度医療の普及によって安全で安心な医療を求められ、看護職は従来にない役割が期待されている。さらに、看護活動の場は地域へ拡大、多様化し看護の独自の判断に基づいた診断や治療の一部を担っている。看護職は専門性を明確にしながら他の専門分野との連携が不可欠である。これらのことから看護職者は専門的知識・技能を自己研鑽し、幅広い知識に基づいた質の高い看護を提供していくことが期待されている。また、人々の健康と生活を支え、人間の生と死という生命の根元にかかわる問題に直面することが多く、その判断及び行動には高い倫理性が求められている。

一方、看護を学ぶ学生の背景としては、核家族化・教育制度や様々な社会現象の影響を受け、基本的な生活能力やコミュニケーション能力の低下が懸念されている。学生は、知識だけではなく感性豊かな人間性と人間への深い洞察力や思索などを持ち、専門職業人としての技術や態度の習得を目指し自ら学び続ける力を養っていくことが求められる。

基礎看護学では看護学の入り口として、基礎的な知識・技術・態度を修得することを目的とする。各専門領域、統合分野の基盤となる基礎的理論や基礎的技術を学ぶため、看護学概論、臨床看護学総論を含む内容で構成している。コミュニケーション能力、人権の尊重と倫理に基づいた安全なケア提供能力を養い、適格な判断力と問題解決能力に基づく看護実践力を強化する。特に演習を強化するとともに、看護技術の到達度を明確にし、技術試験でその効果を評価することで科学的根拠に基づいた看護実践能力を高めることを目指している。

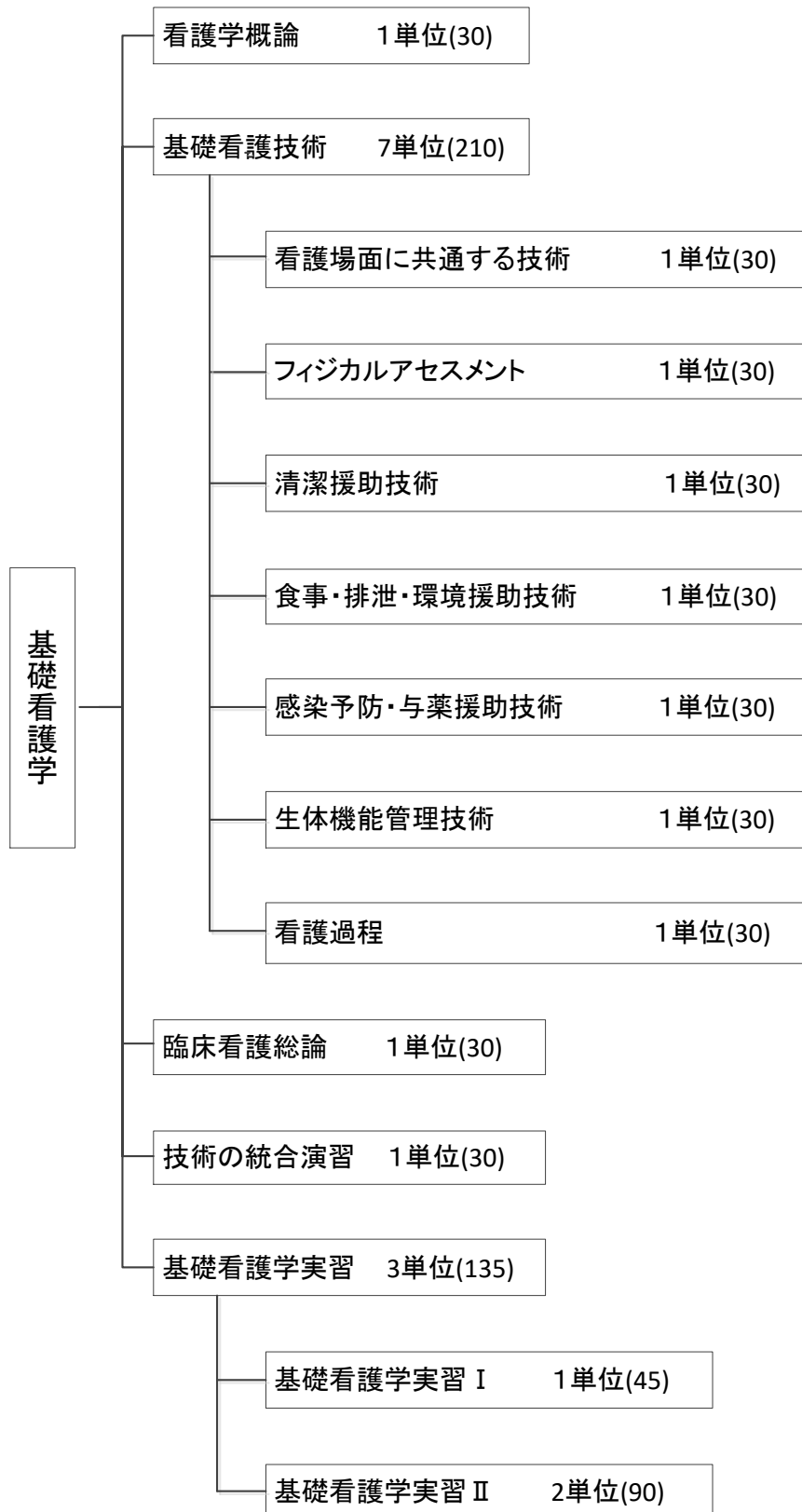
2 基礎看護学目的・目標

目 的：生命の尊厳を基盤に、基礎となる看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学び、看護の専門性を追求していく基礎的能力を育成する。

- 目 標：
- 1 看護を構成する人間、健康、環境、看護の概念を学び、看護の本質を理解する。
 - 2 看護の役割と機能を学び、看護の方法及び看護活動の概要を理解する。
 - 3 保健・医療・福祉の場における調整、連携の必要性を理解する。
 - 4 看護の歴史を学び、現在の看護にどのように関わっているかを理解し、今後の看護のあり方を考える。
 - 5 専門基礎と基礎看護学の知識を統合し、具体的な看護技術を適用するための考え方を学ぶ。
 - 6 倫理的な判断に基づいた安全・安楽なケアを提供するため技術を修得する。
 - 7 看護ケアのための総合的データを得るためのフィジカルアセスメント技術を修得する。
 - 8 日常生活を整え人間の基本的ニーズを満たすための基礎的な知識・技術を学ぶ。

- 9 診療に伴う感染予防・与薬援助技術を修得する。
- 10 診療に伴う生体機能管理技術を修得する。
- 11 看護を実践するための方法として看護過程の展開が理解できる。
- 12 健康上の課題に対応するための、科学的根拠に基づいた各技術の統合実践力を修得する。

3 基礎看護学の構成



4 基礎看護学学習内容

科目名	看護学概論	単位数	1 単位	30 時間
科目区分名	基礎看護学			
開講期	1 年次 前期			
教員名	五十嵐 良子			

授業概要：看護学を構成している人間、環境、健康、看護の基本的概念について学び、さらに看護が保健医療福祉活動の一翼を担う専門職として社会的責務をはたすための看護の本質を探究し、看護の目的や役割機能について学ぶ。これらの学習を通して、看護学の中心的概念を理解する。

- 到達目標：1 看護を構成する人間、健康、環境、看護の概念を学び、看護の本質を理解する。
 2 看護の役割と機能を学び、看護の方法及び看護活動の概要を理解する。
 3 保健・医療・福祉の場における調整、連携の必要性を理解する。
 4 看護の歴史を学び、現在の看護にどのように関わっているかを理解し、今後の看護のあり方を考える。

実務経験の概要：看護師 臨床経験

実務経験との関連：実務経験を活かし、看護学を構成している人間、環境、健康、看護の基本的概念を理解し、専門職としての社会的責務をはたすための看護の本質を探究できる授業をする。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	看護の概念	講義
2	看護の起源	講義
3	看護の歴史 古代文明の発祥と看護 宗教と看護	講義
4	看護の歴史 ナイチンゲールによる近代看護の確立	講義
5	看護の歴史 日本における看護の歴史	講義
6	看護の定義 看護職能団体による定義 看護理論化による看護の定義	講義
7	看護の対象である人間の理解 生物の一種としての人間 統合体としての人間の理解	講義
8	看護の対象である人間の理解 生活者としての人間 看護の対象としての個人・家族・集団・地域	講義
9	看護の対象である人間の理解 看護に求められる役割	講義
10	人間と環境 環境の概念 ホメオスターシス	講義
11	健康と看護 健康の概念 健康と疾病との関係 疾病予防とヘルスプロモーション	講義
12	専門職としての看護師 看護専門職とは 看護基礎教育 継続教育 看護活動の場 多職種との連携協働	講義
13	看護と倫理 看護職者の倫理 患者の権利と意思決定 倫理原則	講義
14	あらためて看護とは	講義
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	

評価方法 筆記試験 100 点

テキスト 基礎看護学 [1] 看護学概論 (医学書院) 看護の基本となるもの (日本看護協会)
 看護覚え書—看護であること 看護でないこと (現代社)
 看護者の基本的責務 (2020 年版) 定義・概念/基本法/倫理 (日本看護協会)

科目名 臨床看護総論 単位数 1単位 30時間
 科目区分名 基礎看護学
 開講期 1年次 後期
 教員名 澤田 良子 櫻井 貴恵 廣瀬 朝江

授業概要：臨床看護総論では、専門基礎と基礎看護学の知識を活用し、健康が障害された人の全体像を捉え基本的ニーズを理解し、それに対する看護介入を考える。その過程で、必要な情報を集め、統合し、考え、根拠を持って看護介入を提案するプロセスを学ぶ。

- 到達目標：1 テーマの症状について、人体の構造や機能を理解したうえで、メカニズム（仕組み）を説明できる。
 2 症状のある対象の基本的ニーズを明らかにできる。
 3 症状がある対象に看護の提案ができる。

実務経験の概要：看護師 臨床経験

実務経験との関連：実務経験を活かし、患者の病態、症状、生活、基本的ニーズと看護を導き出す思考過程を指導する。既習の知識を使い根拠・個別性を理解し、学生が自ら考え表現できるように関わり、看護の楽しさを感じる授業をする。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	臨床看護総論の授業の進め方 授業の概要	講義
2	チームでテーマとする症状を決定 症状のメカニズムについて調べ、関連図にまとめる	演習
3	チーム発表「症状が出現するメカニズム」	演習
4	事例の設定	
5	チーム発表 「対象の基本的ニーズ」	演習
6		
7	クラス発表（チーム） 「対象の基本的ニーズと生活」	演習
8	対象がもっと健康にいきいきと生活するための看護介入 テーマ決定	演習
9	チーム発表「対象がより健康でいきいきと生活できるための看護の提案」	演習
10		
11	発表準備	演習
12	クラス発表（個人）	演習
13	「対象がより健康でいきいきと生活できるための看護の提案」	
14		
15	リフレクション	演習

評価方法 成果物・発表 100点

テキスト ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち(1)病態生理学 (メディカ出版)

参考書

科目名 看護場面に共通する技術 単位数 1単位 30時間
 科目区分名 基礎看護学
 開講期 1年次 前期
 教員名 山 真紀 尾形 洋子 木村 京子

授業概要:看護技術は、健康に問題を持つ人の日常生活全般を組織的に援助するための技術である。

看護技術は科学的根拠を持ちながら個々の生活様式に即した、柔軟性・人間性のある技術であり、その看護独自の専門技術の特徴について学ぶ。また、看護実践は人間同士の相互関係の中で実施されることからコミュニケーションのあり方を学び、また様々な援助場面に共通する技術としてボディメカニクス、移動、移送の方法を学ぶ。

- 到達目標: 1 看護における技術の考え方を理解する
 2 援助の対象に安全で安楽なサービスを提供するための知識・技術を習得する。
 3 看護実践に共通するコミュニケーションの知識・技術を習得する。
 4 ボディメカニクスの基本原理を理解し、効率的なケア実践のための基本的方法が理解できる。
 5 対象者・看護師双方が安全で安楽な移動援助技術を計画・実施・評価できる
 6 健康な生活を維持するための活動と休息・睡眠の重要性について理解する
 7 睡眠を障害する要因と援助方法を理解する

実務経験の概要:看護師 臨床経験

実務経験との関連:実務経験を活かし、看護技術の考え方を学んだ上で、看護場面に共通するコミュニケーションのあり方やボディメカニクス、移動、移送の技術を多くの演習を通して習得できる授業をする。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	看護技術とは	講義
2	看護における安全・安楽	講義
3	安全安楽を守るための技術	演習
4	看護技術におけるボディメカニクス 患者のボディメカニクス	講義
5	長期の臥床による影響 ①廃用症候群・生活不活発病	演習
6	長期の臥床による影響 ②体位変換と褥瘡予防	演習
7	安楽な姿勢と動作	演習
8	移動介助 (体位変換・歩行・移乗・移送) 関節可動域訓練	演習
9	演習 ボディメカニクス・体位変換	演習
10	演習 車椅子移動	演習
11	コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素	講義
12	看護とコミュニケーション 医療における信頼関係とコミュニケーション	講義
13	コミュニケーション 看護面接技術	演習
14	活動と休息の意義 ①睡眠のメカニズム ②睡眠を妨げる因子睡眠 ③休息活動の援助	講義
15	まとめ 筆記試験 (50分)	

評価方法 筆記試験 100点

(看護技術(安全・安楽)20点 ボディメカニクス・移送50点 コミュニケーション・睡眠30点)

テキスト 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ(医学書院) 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ(医学書院)

科目名 フィジカルアセスメント 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 基礎看護学
 開講期 1 年次 前後期
 教員名 山 真紀

授業概要：看護におけるアセスメントは、対象の健康状態の情報を収集して、その情報を専門的知識に基づいて分析・解釈し、対象の状況を判断することである。情報収集においてフィジカルアセスメントは身体状況を客観的、系統的に把握する方法で、問診、視診、触診、打診、聴診などの技術を用いて行う身体診査である。フィジカルアセスメントの基礎となる形態機能学・解剖生理学の知識を活用し、患者の情報を正しくとらえ、正常・異常を判断していくための身体審査技術を習得する。

- 到達目標：1 看護におけるフィジカルアセスメントの意義が理解出来る
 2 頭部から足先までの全身の状態を系統的に観察する視点と、その方法を理解する
 3 フィジカルアセスメントの基本的身体審査技法を習得する

実務経験の概要：看護師 臨床経験

実務経験との関連：実務経験を活かし、身体的健康上の問題を明らかにするために形態機能学や解剖生理学の基礎的知識を活用し、問診・視診・触診・聴診・打診の技術を用いて対象者の情報を正しくとらえ、全身の状態を系統的に査定する方法を演習を通して学ぶことができる授業をする。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	看護におけるヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント	講義
2	「生きている」ことのアセスメント	講義
3	循環器系アセスメント ▶脈拍 心拍 *聴診器の使い方	講義
4	循環器系アセスメント ▶血圧	講義
5	血圧測定（触診法 聴診法）	演習
6	呼吸器系アセスメント	講義
7	呼吸器系アセスメント *呼吸音の聴診	演習
8	意識（意識障害の分類） 認知機能検査 演習：瞳孔の観察	講義 演習
9	「生きていく」ことのアセスメント 日常生活行動を支えるからだの機能のアセスメント ▶生体恒常性 ▶神経系	講義
10	日常生活行動を遂行するためのからだの機能のアセスメント ▶腹部アセスメント・食事 ・排泄 ▶筋・骨格系アセスメント・活動	講義
11	バイタルサインの測定・呼吸音の聴診	演習
12		
13	腹部アセスメント（5技法を用いた腹部の観察）	演習
14	筋・骨格系のアセスメント（関節可動域の測定）	演習
15	まとめ 筆記試験（50分）	

評価方法 筆記試験 100点

テキスト 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院）

科目名 清潔援助技術 単位数 1単位 30時間
 科目区分名 基礎看護学
 開講期 1年次 後期
 教員名 山 真紀

授業概要：からだの清潔を保ち、身だしなみを整えることは健康レベルに関係なく、あらゆる人間が持っている基本的ニーズである。しかし、清潔に対する考え方や習慣は、個人、家族、地域や時代等により特徴があり、多様である。人間個々の個別性を踏まえ、人間が「清潔であること」の意義を考え、清潔の方法や身体への負担などを考え、患者の疾病や日常生活動作に合わせた清潔の援助方法について学習する

- 到達目標：1 人間の日常生活における清潔の意義を理解できる
 2 清潔が阻害された時に引き起こされる問題を推察できる
 3 エビデンスを持って、個別性のある清潔援助技術を計画、実施、評価できる
 4 演習を通して患者の気持ちを推察できる

実務経験の概要：看護師 臨床経験

実務経験との関連：実務経験を活かし、「身体を清潔にする」意義の多様性と個別性を理解し、対象者に合わせた清潔援助技術を多くの演習を通して習得できる授業をする。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	未来教育プロジェクト学習について事例提示 事例の清潔についてゴールシートを書き目的・目標を明確にする	講義
2	心地よいを考える ① 足浴の温度、実施時間、環境 ②清拭時の温湯、皮膚体感温度、拭き方	演習
3	清潔の意義 ①身体的（生理的）意義 ②心理社会的意義 整容の意義	講義
4	清潔の援助方法の違い ① 健康レベルによる違い ②発達段階による違い ③性別、文化による違い	講義
5	洗髪	演習
6	洗髪	演習
7	全身清拭 寝衣交換	演習
8	全身清拭 寝衣交換	演習
9	事例に基づいた清潔援助計画の立案	演習
10	清拭 足浴 洗髪 陰部洗浄 シャワー浴	
11	プレゼンテーション準備、援助方法のビデオ撮影	演習
12	発表（プレゼンテーション）	演習
13	発表（プレゼンテーション）	演習
14	発表（プレゼンテーション）	演習
15	まとめ 筆記試験（50分）	

評価方法 筆記試験 60点

成果物（レポート グループワーク） 40点

テキスト 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

参考書

科目名 食事・排泄・環境援助技術 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 基礎看護学
 開講期 1 年次 前期
 教員名 廣瀬 朝江 小林 千恵子

授業概要：人々が環境条件を整えることは、それぞれの健康の保持・増進・回復を助けている。

特に健康障害のある人に対しては、特殊な条件を考慮し生活環境を整えることが必要とされていることを学ぶ。さらに私たちの生命を維持するための「食べること」「排泄すること」は、すべての人に欠かせない生活行動であり、これらの生活行動の意義を考え、適切な維持が出来なくなった人への援助方法について学習する。

- 到達目標：1 人間を取り巻く環境・生活環境の意義について理解する
 2 対象の快適な環境の調整方法を理解し、望ましい病床の整備技術を習得する
 3 健康な生活のための食事の意義を理解する
 4 食事行動に障害のある人に適した援助方法を習得する
 5 排泄の意義とメカニズム・排泄の障害について理解できる
 6 床上排泄の援助方法を習得する
 7 浣腸・導尿の目的・援助方法を理解する

実務経験の概要：看護師 臨床経験

実務経験との関連：実務経験を活かし、「環境を整える」「食べる」「排泄する」意義の多様性と個性を理解し、対象者に合わせた清潔援助技術を多くの演習を通して習得できる授業をする。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	食事と栄養摂取 食事の意義と目的 食生活の基本的援助(栄養状態のアセスメント・摂取・嚥下機能・消化と吸収のメカニズム) 食事に関する看護の役割	講義
2	健康障害のある対象の食事 経管栄養法・経鼻栄養法・胃瘻・静脈注射(中心静脈)、栄養法の種類と援助方法・口腔ケアの意義と目的・援助方法	講義
3	食事介助	演習
4	口腔ケア	演習
5	排泄の意義と目的 排泄のメカニズム 援助のための基礎知識(正常な排泄・排便の異常・排尿の異常・排尿困難・尿失禁)	講義
6	排便障害と援助 浣腸・排便を促す援助	講義
7	排尿障害と援助 導尿・膀胱留置カテーテル・失禁の援助	講義
8	演習 床上排泄	演習
9	演習 浣腸・導尿(感染予防の演習)	演習
10	演習 温電法 腹部マッサージ	演習
11	生活環境について	講義
12	環境とは 室内環境の構成因子 病床における環境整備	講義
13	病室の環境調整	演習
14	ベッドメイキング	演習
15	まとめ 筆記試験(50分)	

評価方法 筆記試験 100 点 配点(食事 30 点 排泄 40 点 環境 30 点)

テキスト 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)

科目名 感染予防・与薬援助技術 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 基礎看護学
 開講期 1 年次 前期
 教員名 小林 千恵子 廣瀬 朝江

授業概要：看護師は絶えず感染の可能性と相対していること、同時に多くの易感染者を対象としていることをよく理解し、感染予防の意義と、その予防対策として手洗い方法・滅菌操作の基本を修得する。また、看護実践に必要な治療に伴う援助として薬物療法の基本と看護師の役割について学び、安全安楽かつ確実な与薬の援助技術を修得する。

- 到達目標：1 感染のメカニズムと、感染予防の意義・目的を理解する
 2 スタンダードプリコーションの基本方針と感染予防策を理解する
 3 清潔・不潔の区別を理解し、感染予防のための技術を習得する
 4 感染予防策を誠実に順守し、また、指導するための態度を修得する
 5 薬物療法における基礎的知識を理解する
 6 薬物療法における看護の役割を理解する
 7 各種与薬の適用・留意点・援助方法を理解する
 8 安全安楽かつ、確実な与薬のための援助方法を習得する

実務経験の概要：看護師 臨床経験

実務経験との関連：実務経験を活かし、臨床現場で対象者を守り自らを守るための感染予防の意義および薬物療法を受ける患者の看護の基本と安全安楽かつ確実な与薬の技術を、演習を通して習得できる授業をする。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	感染予防対策の基礎知識	講義
2	感染予防対策の技術	講義
3	手洗いと無菌操作	演習
4	手洗いと無菌操作	演習
5	手術時手洗いとガウンテクニック	演習
6	手術時手洗いとガウンテクニック	演習
7	与薬に関する基礎知識 与薬における看護の役割 与薬の種類と各種与薬の援助方法	講義
8	皮内注射・皮下注射・筋肉内注射に関する基礎的知識と与薬方法	講義
9	与薬の援助技術（経口与薬・直腸内与薬・吸入法・筋肉内注射・皮下注射・皮内注射）	演習
10	与薬の援助技術（経口与薬・直腸内与薬・吸入法・筋肉内注射・皮下注射・皮内注射）	演習
11	静脈注射に関する基礎的知識	講義
12	輸液の管理方法	講義
13	与薬の援助技術（点滴静脈注射）	演習
14	与薬の援助技術（点滴静脈注射）	演習
15	まとめ 筆記試験	

評価方法 筆記試験 100 点 配点（感染予防 50 点 与薬 50 点）

テキスト 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

参考書

科目名 生体機能管理技術 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 基礎看護学
 開講期 1 年次 後期
 教員名 五十嵐 良子

授業概要：医療機関を訪れた人は、医師の診察後様々な検査・治療・処置を受けることとなる。これらは患者の心身に苦痛を与えるものも少なくない。対象者が検査・処置を納得し、主体的に行動できるよう支えるための看護師の役割を学ぶ。そして検体採取や様々な治療・処置の方法を理解し、安全で負担の少ない処置が提供できるための援助技術を学ぶ。

- 到達目標：1 呼吸管理に必要な一時的吸引方法を習得する
 2 酸素療法における基本的知識・援助方法を理解する
 3 吸入療法について理解する
 4 包帯法の目的と種類、援助方法を習得する
 5 検査における看護師の役割を理解し、正確な検体の採取と援助方法を習得する
 6 輸血を安全に行うための基礎的知識・援助方法を理解する

実務経験の概要：看護師 臨床経験

実務経験との関連：実務経験を活かし、検査・治療・処置の方法を理解し、検査・治療・処置を受ける患者の心身に与える苦痛に配慮しながら、安全・安楽に看護技術が提供できるための方法を学ぶことができる授業をする。

授業計画

回数	授業内容	授業方法	
1	1.呼吸・循環を整える技術	講義	
2	1) 事例提示 (事前学習について)	演習	
3	2) 吸引・酸素吸入・薬液吸入・包帯法の講義とデモンストレーション		
4	3) 演習グループ決定		
5	4) 援助目標決定		
6	5) 技術練習・実践をしながら、援助計画を作成		
7	6) 担当技術以外の看護技術を体験		
8	7) 発表準備、グループの発表前自己評価記入		
9	8) 発表		
10	9) 振り返り・まとめ		
11	10) 演習事後レポート (個別)・グループ自己評価シート		
11	2. 検体検査・静脈血採血	講義	
12		演習	
13	3. 輸血療法を受ける患者の看護 1) 輸血とは 2) 輸血が必要になるとき 3) 輸血療法の分類 4) 血液製剤の種類と取り扱いの基本 5) 製剤ラベル 6) 輸血の副作用 7) 献血から供給まで 8) 輸血の実施	講義	
14			
15			まとめ 筆記試験 (50 分)

評価方法 筆記試験 100 点

テキスト 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)

参考書

科目名 看護過程 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 基礎看護学
 開講期 1 年次 後期
 教員名 尾形 洋子

授業概要：看護過程は看護の目的や機能を具体的に実践するための方法論の 1 つであり、看護理論と実践をつなげるものである。看護過程の構成要素であるアセスメント・看護診断・計画立案・実施・評価を理解し、演習として事例を用いて一連の看護過程を展開する。演習を通して、対象の個別性に応じた看護を、根拠をもって具体化できることを理解する。

- 到達目標：1 看護過程の構成要素、基盤となる考え方を理解する。
 2 看護過程の構成要素であるアセスメント、看護診断、計画立案、実施、評価を理解する。
 3 グループで事例を用いて看護過程の展開をおこない、リフレクションができる。

実務経験の概要：看護師 臨床経験

実務経験との関連：実務経験を活かし、患者に看護を提供する方法を具体的に理解できるように、事例を用いて看護過程を展開する。臨床経験を教材化してアセスメント、看護診断、看護計画、実施、評価の各段階を、グループで討議し考える授業をする。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	看護過程とは 基盤となる考え方 問題解決課程 クリティカルシンキング 倫理的配慮 リフレクション 看護診断とは NANDA-I 分類と定義	講義
2	看護過程の構成要素 アセスメント 看護診断 計画立案 実施 評価 事例「東京子さん」	講義
3	看護過程の各段階：アセスメント	講義
4	看護過程演習：「東京子さん」のアセスメント：情報収集 データベース 分析 関連図	演習
5		演習
6	看護過程の各段階：看護問題の明確化 看護診断	講義
7	看護過程演習：看護診断 問題リスト	演習
8	看護過程の各段階：看護計画	講義
9	看護過程演習：看護計画	演習
10	看護過程の各段階：実施 評価	講義
11	看護記録とは 記載・管理における留意点 看護記録の構成	講義
12	看護過程演習 「東京子さん」看護計画の実施 記録	演習
13		演習
14	リフレクション	演習
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	

評価方法 筆記試験 70 点 成果物 30 点

テキスト 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I (医学書院)

NEW 実践！看護診断を導く 情報収集・アセスメント (学研)

NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2024 (医学書院)

参考書 別巻 臨床検査 (医学書院)

科目名 技術の統合演習 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 基礎看護学
 開講期 2 年次 前期
 教員名 山 真紀

授業概要：対象の日常生活上の問題を理解し、科学的根拠に基づいた看護を実践する。

看護実践の振り返りを行い、自己の看護技術の習得状況を認識し、看護実践能力に対する自己の課題を明確にする。臨床看護師の指導のもと、演習を行い臨地実習にむけてイメージすることができる。

到達目標：1 既習の知識・技術を統合し、対象の個別性に合わせた援助を計画し、安全・安楽に実践できる。実践中・実践後の対象の反応を捉え、看護師役の行った看護実践を評価・修正し今後活かすことができる。

2 状況設定下において技術演習を行い、臨床看護師に指導を受けることを通して、より実践的な知識・技術を習得することができる。

実務経験の概要：看護師 臨床経験

実務経験との関連：実務経験を活かし、学生が臨地実習における科学的根拠に基づいた看護実践ができることを目指し、臨地実習を想定した状況設定のもとでグループ内でのディスカッションの機会を多く持ち、個別性を考慮した援助方法を創造する能力を習得するための授業をする。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	統合演習オリエンテーション	講義
2	看護援助計画用紙作成	演習
3	看護援助計画用紙作成	演習
4	看護援助計画用紙作成	演習
5	看護援助計画用紙修正・技術練習 行動計画表（2 枚）・演習物品配布	
6	看護援助計画用紙修正・技術練習	演習
7	技術演習オリエンテーション・準備	講義
8		
9	<看護技術>	演習
10	① フィジカルアセスメント	
11		
12	グループ（2 人 1 組）演習	演習
13	<看護技術>	
14	①陰部洗浄（オムツ交換含む）	
15	② シーツ交換（環境整備含む）	

評価方法 技術確認試験 技術演習

テキスト 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I （医学書院）

基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II （医学書院）

基礎看護学実習

1 実習目的

看護の対象及び看護の機能と役割を理解し、看護の基礎となる知識・技術・態度を習得する。

2 実習目標

- 1) 看護の対象を身体的・心理的・社会的側面から統合的に捉える必要性と方法を理解する。
- 2) 健康レベルが低下した対象に必要な基礎看護技術を習得する。
- 3) 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの基礎を習得する。
- 4) 看護過程展開の技術を習得する。
- 5) 保健・医療・福祉施設における看護の役割を理解する。
- 6) 問題意識をもって積極的に課題に取り組む姿勢を身につける。
- 7) 看護の実践を通して人間・環境・健康に対する理解を深め、自己の看護観を養う。